尾張・知多

●尾張支社
一宮市栄
2—14—29
アスティ一宮
北館102号
電話
0586(72)5003
FAX
0586(72)6823

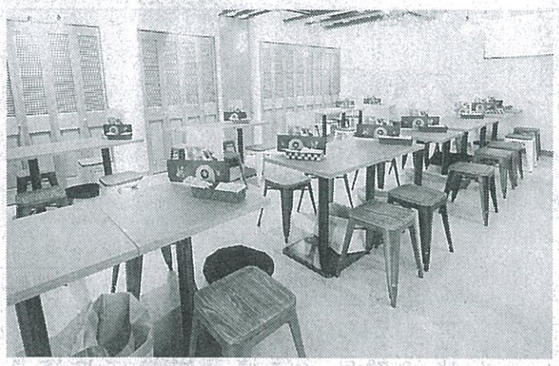
●尾東支局
春日井市上条町
1—215
原ビル4階
電話
0568(41)9950
FAX
0568(41)9951

●半田支局
半田市泉町1—4
新美ビル4階
電話
0569(24)6320
FAX
0569(24)6367

イタリアンバルを全国展開

ブランシェ 美容室にFC経営提案

美容室をチェーン展開するブランシェ（本社春日井市大手町、福本勝則社長、電話0568・33・0555）は、グループ企業が運営するイタリアンバル「トン・ガリアーノ」を全国展開する。サッポロビールと提携し、共同でトン・ガリアーノのフランチャイズチェーン（FC）システムを構築。美容室の多角化として、オーナーにFC経営を提案する。2022年に25店の出店を目指す。（柴田芳尚）


FC1号店「トン・ガリアーノ岡崎店」の店内

サッポロビールと提携 多角化で固定客囲い込み

ブランシェは06年に飲食店事業に参入。トン・ガリアーノはグループ企業のブリッジ・クリエイティブフーズ（本社同）が愛知県内で4店運営し、1店舗当たり月420万～555万円を売り上げている。

美容業界は生き残り競争激化や人口減少などで取り巻く環境は厳しく、事業の多角化を検討する美容室オーナーが増えているという。

同社はグループの実績を生かして、他の美容室オーナー向けに飲食業への参入機会を創出することを決意。グループのノウハウとサッポロビールの知名度や物件情報などを生かし、FC展開に乗り出すことにした。

FC本部となるブリッジ社を中心に、飲食店のマネジメント知識や接客・調理技術など約1か月半の研修と立ち上げ支援を行う。開業資金としてFC加盟金380万円、保証金1200万円など含み約2500万円を想定。面積約82平方㍍、席数40席の店舗で、月商4000万円を想定している。

福本社長は「美容室と飲食店の相乗効果で、顧客の拡大が図れる」と話す。

また、サッポロビールは、「リピート客を多く持つ美容室による飲食店の経営は固定客の囲い込みにつながり、当社製品の消費拡大になる」（荒木達也東海北陸本部愛知第2支社長）とし、全国に8カ所の地区本部でFC店舗を支援する。

岡崎市にFC1号店「トン・ガリアーノ岡崎店」が6月、オープン。年内に仙台市、来年1月までに広島市や名古屋市でFC店を出店する計画。

全国展開を加速させるため全国を16ブロック・50エリアに分けて、各エリアで美容ディーラー1社をトン・ガリアーノの代理店とする計画だ。1代理店当たり5店舗の出店を目指す。

提携したブランシェの福本社長（右）とサッポロビールの荒木支社長

イルカにタッチなど 14日から夏イベント 南知多ビーチランド

【常滑】南知多ビーチランド（愛知県美浜町）は14日から、「プールの中でイルカにタッチ」など夏限定イベントを開催する。

イルカにタッチは、イルカのプール足元に来ることができる。昨年は各回の比1・5倍やす。

開催時間と午後1時日は午前10時55分の2日は午前11時40分、午回となる。料金は50

春日井市役所の連携PRコーナー

春日井市 連携PR

春日

【春日井

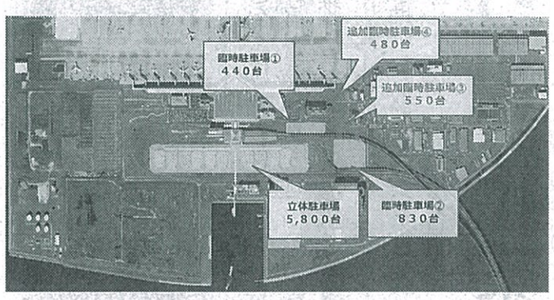
のほど、市ホールに、をPRする した。8月 両市は2 「自治体間 する基本協 れぞれの資

お盆期間中は8100台を確保

立体駐車場新設も

中部国際空港（常滑市）は11日、夏季の繁忙期の中でもお盆期間中（8月11～19日）にピークが予想される空港島の駐車場について、今年は収容台数8100台を確保すると発表した。従来の臨時駐車場2カ所（1270台）に加え、同期間中だけ旅客ターミナル北側エリアに2カ所の追加臨時駐車場（計1030台）を増設する。昨年の同期間の総収容台数に比べ、195台分減少する。（常滑）

今年のお盆期間に追加する臨時駐車場の設置エリア



お盆以降の追加臨時駐車場のイメージ図

同空港では、2019年上期に供用開始予定の新旅客ターミナル建設により、4300台分の駐車場を5月に閉鎖した。今年のゴールデンウイークまでの総収容台数は1万100台だった。

年間約300日の平常期は現在、既存の立体駐車場5800台と、満車の際の臨時駐車場440台の計6240台で運用。今年の混雑期（GW、お盆、年末年始、3連休など年間約60日）には、愛知県の用地や従業員用の駐車場を追加臨時駐車場に活用し、8100台で対応する。なお、期間中の予約分（約2千台）はすでに満車となっている。

今後の計画は、新旅客ターミナルの供用開始後、南側エリアに新たな立体駐車場1200台分程度を建設する。

また、愛知県が建設中の国際展示場駐車場約3400台の相互利用を進め、19年度末には既存の立体駐車場5800台などと合わせ1万台強の収容台数が確保できる見通し。ただ、国際展示場のイベントと旅客需要の混雑期が重なった場合などの調整が必要という。同社は7月1日付で、営業推進本部にアクセス対策室を新設。駐車場や交通アクセスなどの対応を強化している。

奥野康生室長は「旅客需要は昨年以上を予想しており、鉄道、バスなどの増強を要望した。乗り遅れを防ぐためにも、繁忙期には公共交通機関を余裕を持って利用してほしい」と話している。

飲食、宿泊、ものづくり体験OK

せと銀座通り商店街 にぎわい創出拠点

第三セクターの瀬戸まちづくり会社（本社瀬戸市栄町、鈴木政成社長、電話0561・97・1600）はこのほど、せと銀座通り商店街に飲食と宿泊、ものづくり体験の三つの機能を備えた「カフェ&ゲストハウスもやいや」をオープンした。イベントやワークショップなどを定期的に開催し、瀬戸の魅力を発信。にぎわい創出の拠点として活用する。

オープンしたカフェ&ゲストハウスもやいやは、瀬戸市朝日町の名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅から徒歩6分の立地。2年前まで沖縄料理店だった築約100年の古民家を改修し、商店街へのアンケートなどをもとに飲食と宿泊、体験ができる複合施設として開設した。宿泊、体験ができる施設は同商店街で初めて。

オープンした「カフェ&ゲストハウスもやいや」

1階のカフェルーム席やカウンター中庭が見えるソ40席を用意。料理は産物を使用し、瀬戸焼って提供する。地元の作品の展示販売コ